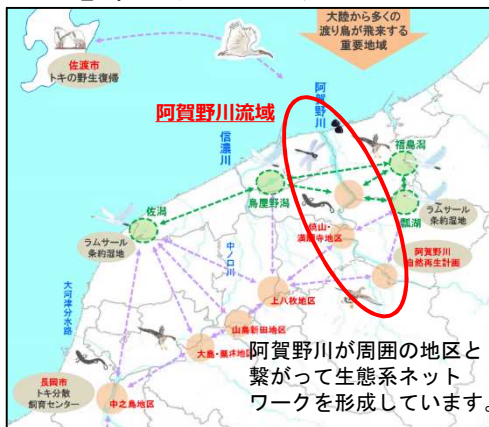


自然再生事業の変更について

阿賀野川では、平成25年度から河原(ワンド)の再生、連続性の確保などの自然再生事業を実施してきました。令和2年度末に生態系ネットワーク形成に関する取組を追加する計画を策定し、令和4年度から、生態系ネットワーク形成としてハクチョウ類のねぐらとなる浅場の再生等を整備を開始します。

■生態系ネットワーク



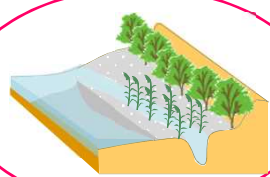
【目標】
ガン類、ハクチョウ類、
トキの大型水鳥を指標
種とした生態系ネット
ワークの形成を図る

連続性



トキの餌場環境(水田・潟)に魚類が遡上するための「連続性」

浅場



ハクチョウのねぐらとなる「浅場」

連続性

河原(ワンド)

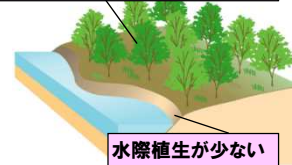
浅場

整備イメージ

①河原(ワンド)の再生

・カワラハハコなどが生育し、コチドリ等の鳥類が利用する砂れき河原、稚魚のゆりかごとなるワンドが作られます。

樹林化が進み、砂れき河原が少ない

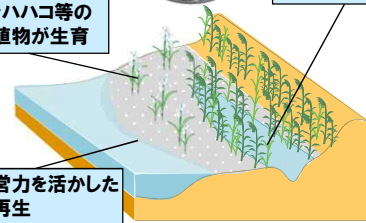


水際植生が少ない

カワラハハコ等の河原植物が生育



自然営力を活かした河原再生



▼カワラハハコ

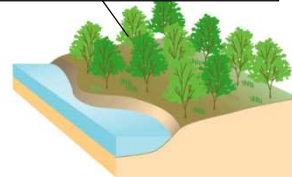


水際にヨシ等が繁殖し、仔稚魚が多数生息するワンド

②浅場の再生

・冬季にはハクチョウなどのねぐらとなり、サギ類の生息・採餌場となる浅場が作られます。
 ・水際にヨシなどからなる湿性環境が作られます。

樹林化が進み、砂れき河原が少ない



ハクチョウ類のねぐらに適した中洲や浅場が再生される



サギ類の採餌場となる浅場が再生される

▼浅場の再生イメージ



③連続性の確保

・支川、水路、水田など耕作地を利用しているドジョウ、タナゴ、ナマズなどの魚類が、本川と支川、水路間を支障なく遡上できるようになります。

落差があり、魚類が遡上できない



スロープ化し、魚類が遡上できるようになる



▲タナゴ類 (ヤリタナゴ)



▲ドジョウ

▼スロープ整備のイメージ



魚種が支障なく遡上